

日本の未来を見据えて撃つ！
そんなあなたにホットな話題をお送りする
最先端オピニオン紙

日本シティジャーナル

発行: ネットハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3
TEL 0476-89-2333 FAX 0476-89-2334
[平日] 10:00~19:00 [土曜] 12:00~17:00
<http://www.nihoncity.com>

成田市、佐倉市、印西市、富里市、香取市、山武市、船橋市
千葉市(花見川区、美浜区)、習志野市、八千代市、四街道市
酒々井町、栄町、小林、安良、多古町、横芝光町、芝山町、神崎町

発行部数: 500,000部

ヘブライ語が証する古代史の真相

日本語とヘブライ語の共通点から学ぶ日本のルーツ

今日でもイスラエル人の中には、古代、彼らの先祖が日本へ渡来して住み着いたと考えている人が少なくありません。駐日イスラエル元大使のコーエン氏もその一人です。コーエン氏は四国や諏訪大社周辺を含む各地を旅しながら、数々の古代遺跡を見て回り、自らの先祖が残したに違いないと考えられる多くの痕跡を確認しました。イスラエルの教育機関や政府の要人など、特に高学歴の人たちの中には、日ユ同祖論について深い関心を持っている方が大勢いることからしても、日本とユダヤの関係は、もはや日本人にとっても無視することのできない重要なトピックです。

平成28年3月26日から28日までの3日間、イスラエルから日本を訪れていた国立アリエル大学元教授であり、イスラエル教育文化省において20年間、教育指導主事を務めてこられたシャハン教授と時を共にすることができました。「In the footsteps of the lost ten tribes」(失われた10部族の軌跡を辿る)、という著名な本を執筆されたシャハン教授は、日ユ同祖論におけるイスラエルの権威です。シャハン教授は失われた10部族の軌跡をリサーチするため、4年間にわたりアジア大陸を旅されました。その間、古代の巻き物に記された文献や地図だけでなく、ギリシャ語、アラビア語、中国語、そして日本語などに翻訳された歴史に関わる様々な文献も研究されました。さらには宣教師や戦士、探検家、旅行家などが残した多くの証言から、古代の史実を見極めるための様々なヒントを模索し、史実を確かめようとしたのです。

紀元前722年、北イスラエル王国はアッシリアに攻められ、国家が崩壊しました。その際、アッシリアの軍隊により、イスラエルの10部族は捕虜として捉えられ、その後、捕囚の民は歴史の中に埋もれ、どこにいるのかわからなくなりました。その後、南ユダ王国に残されたユダ族、ベニヤミン族、レビ族の指導者らは、時には捕虜として連れ去られた10部族を追って手紙などを送りながら、イスラエル民族との繋がりを保とうとしたようなのですが、それらの文献も歴史の

流れの中に見失われてしまい、捕虜となった民の居所が全くわからなくなりました。

そこでシャハン教授は、手紙を送り届ける役を授かったメッセンジャーの行き来を目を留め、様々な文献を検証することにしました。そして遂に、アフガニスタンの山岳に集落を形成するパシュート族の中に、10部族に関連する名前や系図を見出したのです。また、ナフタリ族の末裔がアジア大陸の内地に存在していることも発見し、中国の開封においては、イスラエルの渡来者が住み着いた痕跡を見出したのです。さらにはイスラエル10部族が大陸を横断し続け、最終的にインドを経由して日本にまで到達したとしか考えられないような、言葉の類似点を何百と確認したのです。その結果、シャハン教授は多くのヘブライ語が、古代、日本列島において土着し、日本語と化して用いられるようになったと考えたのです。もはや、偶然の一致とは言えないほどの類似した発音を持つ多くの日本語とヘブライ語の存在に、シャハン教授の日本に対する思いは、ますます募っていくことになりました。

そのシャハン教授と共に3日間、日本国内を旅しながら、本稿のコンテンツに含まれる日本語とヘブライ語の比較対照について様々な意見を頂き、多くのことを学ぶことができたことは、まさに天与の機会でした。これまでの執筆内容、方向性が決して間違いではなく、むしろ、イスラエル人学者の目から見ても、「確かにそうだ!」と相槌を打っていただけの内容がふんだんに含まれていることを再確認することができました。そこで、シャハン教授から得た貴重なアドバイスを元に、これまでの内容を改訂し、コメントを頂いた主な箇所を抜粋して書き直すことにしました。元イスラエルの国立大学教授が太鼓判を押すほど、日本とイスラエルの繋がりは切っても切れないものがあります。その史実を、一人でも多くの人に理解していただけるよう、今回「君が代」と「かごめかごめ」の解説をはじめ、様々なキーワードに関する記事を改めて書き下ろしました。ぜひ、参考にしてください。

八坂神社は守護神の意味

今日「八坂」と言えば、京都の祇園町にある八坂神社を思い起こすのではないのでしょうか。全国2300社にものぼる関連神社の総本社である八坂神社は、古くから祇園神社としても知られていましたが、明治時代より正式に八坂神社と呼ばれるようになりました。

「八坂」という名称は、日本書紀などの史書に記載されている「八坂瓊曲玉」という神宝の名称にも見られることから、古代より、神に纏わる言葉として用いられていたと考えられます。一説によると、「八坂」の語源はヘブライ語の **שָׂכָה** (yasaka、ヤサカ) ではないかと言われています。「サカ」というヘブライ語には、「見る」「期待する」という意味が込められていることから、「ヤサカ」を、「神を見る」と解釈したのです。

一方、「八坂」は「神の守護」を意味する **סָכָה** (yasako、ヤサコ) と理解することもできます。ヘブライ語で **סָכָה** (Sako、サコ) とは、「覆う」または「被せる」ことです。旧約聖書の詩篇140編8節には、この「サコ」という文字を使った「頭を覆う」という表現が、「私を守護する」「守る」という意味で用いられています。よって、神を意味する「ヤ」を付けて、「ヤ・サコ」と繋げると、「神の守護」という意味になります。

「八坂」という名称は、お守りの役割を果たす八坂瓊曲玉だけでなく、神社の名称にも使われていることからしても、「神の守護」の意味となる「ヤサコ」が多少訛って「ヤサカ」になったと解釈することにより、名前の辻褄が合います。こうして祇園神社は神が守られる八坂神社とも呼ばれるようになり、古代から地域一帯、及び日本国を守護する神を祀る神社として、人々から愛され続けてきたのです。

神宝なる五百箇御統とはヘブライ語!

古代史に登場する曲玉とは、ごく一般的に、石を磨いて作った装身具のことを指します。時には複数の曲玉を紐で結ぶこともあり、そのため曲玉には紐を通す穴が開けられている場合があります。曲玉を紐で結び、護身用のお守りとしたのが、神宝の

一つに数えられている「八尺瓊曲玉」です。中でも、三種の神器の一つに数えられる「八尺瓊の五百箇御統」は、極めて重要な神宝であるだけに、その名前の意味は、極めて重要です。

「八尺瓊の五百箇御統」という名称の意味を理解することは、これまで極めて困難なことと考えられてきました。定説がある訳でもなく、解釈の鍵となるキーワードもほとんど見当たらず、あったとしても意味をなさないので、例えば、「八尺瓊曲玉」の「八尺」は、その漢字の当て字から、長さの単位を意味する「咫」(あた、さか) が語源ではないかという説があります。すると「八尺」とは、およそ144cmもの長さになり、首飾りや手首周りにつける装飾品とは成り得ない大きさになってしまいます。「八咫鏡」の場合では、鏡の円周が144cmであると理解することはできませんが、「曲玉」ではそのような解釈ができません。辻褄を合わせるため、「八尺瓊曲玉」の「八尺」を、曲玉を結び付けるための紐や緒の長さであるとか、単に大きい曲玉という意味に捉える説などが浮上りました。さらに、ますます栄えることを意味する弥栄(いやさか) が転じた言葉であるという説なども提言されましたが、どれも納得のいく説明ではありません。

「八尺」は「やさか」と読まれたことから、「八坂」と同等の意味を持つ言葉であると考えられます。ヘブライ語で「やさか」とは、神が守ってくださることを意味し、**סָכָה** (yasakho、ヤサコ) と書きます。**סָכָה** (Sakhoh、サコ) は「覆う」または「被せる」という意味であり、神が守ってくださることを表現する際に使われる言葉です。よって、「八尺」(yasakoho) の意味は「神が守る」であり、厳密には「神が彼を守られる」ことを指しています。八尺の名称を用いて曲玉を形容する場合は、「八坂」の後に、「瓊」(に) という一文字を語尾に付加して、「やさかに」と読むことがあります。「瓊」はヘブライ語で、「私を」の意味で用いられる **אֲנִי** (yasakoni、ヤサコニ) は、「神が私を守ってくださる」の意味になります。「八尺瓊曲玉」とは、神が私を守護してくださることを象徴とする曲玉のお守りを指していたのです。次に、「八尺瓊」の後に続く「五百箇御統」(いおつみすまる) という

名称を検証してみましょう。とても不可解な言葉であることから定説がありません。一説では「五百箇」を数が多いという意味に捉え、曲玉を緒で貫き、紐でまとめて環状に繋いで、首や胴体に巻くことができるようにしたものを、「御統」(すまる) と想定しています。合わせて「五百箇御統」となり、緒で結ばれた多くの曲玉を体へ巻きつけることを指していたと考えたわけですが、

「イオツミスマル」はヘブライ語で明確に理解することができるだけでなく、漢字で「五百箇御統」という文字が当てられた理由まで知ることができます。ヘブライ語で「イオツミスマル」を綴ると、**הֵיאוֹתְמִשְׁמַר** (heh-ot-mishmaru、ヘオツミシュマル) となります。**הֵי** (heh、ヘ) の **ה** は数字の5を表すと同時に、神を表す文字でもあります。聖なる神の名前は発音できないことから、古代よりイスラエルの民は神の御名を象徴するハシテムと呼ばれる神の代名詞を用いてきました。**הֵי** もハシテムであり、神様を指しています。次の **אוֹת** (ot、オツ) はサインや印を意味する言葉、もしくは、「あなた」を言い表す **אַתָּה** (ata、アタ) という言葉が多少訛って、「オツ」となったものと理解することができます。**מִשְׁמַר** (mishmaru、ミシュマル) は、守ることを意味する言葉です。管理や守護することに関する名詞として、「守り主」のような意味合いで使われています。

すると、「五百箇御統」という言葉の意味が、ヘブライ語で明確に浮き上がってくるのがわかります。「ヘ - オツ - ミシュマル」の最初の「ヘ」は神を意味し、「オツ」はあなた、または印、そして「ミシュマル」は守り主を指します。よって、これら3つのヘブライ語から構成される「ヘオツミシュマル」は、「神、あなたは(私の)守り主!」となります。また、「オツ」の意味を「印」と仮定すると、「神の印が(私の)守り主!」と理解することもできます。

「イオツミスマル」には、ヘブライ語で重要なメッセージが秘められていました。神が守り主であり、神から守られているという思いが神宝に込められ、「ヘオツミシュマル」という言葉によって言い表されていたのです。そして神の名前の代名詞であり、ハシテムとなる頭文字の **ה** は、アルファベットの字そのものが数字の5を意味することから、「イ

オツ」という発音に漢字を当て際に、「五」が用いられたのです。また、多くの曲玉を身に纏い、それが神の守護の象徴となったことから、「百箇」の漢字が「オツ」の当て字として選ばれたのではないのでしょうか。そして神は「守り主」、「守護神」であり、全てを治めたもう全能なるお方であることから、最後に「御統」という漢字を「ミスマル」に当てたと考えられます。御神が統べ治め、私を守ってくださるという信仰心が、「五百箇御統」に込められていたのです。

「八坂瓊」と「五百箇御統」は、ヘブライ語で読むと、その名前の由来が明確に浮かび上がってきます。神の救いに大きな期待を込め、神の御加護を信じた結果、「ヤサカ」というヘブライ語で「神の守り」を意味する言葉は、「八坂」「八尺」と書かれるようになり、曲玉を形容する文字としてだけでなく、神による守護の意味を持つ言葉として、普及したのです。そして私自身が守られることを強調する際は、「八坂瓊」(やさかに)と題して、「神が私を守護する」という意味で用いられたのです。

「八坂瓊」は「五百箇御統」と呼ばれる神宝を形容する言葉としても使われ、神の御加護に期待する神宝の象徴となるべく、「八尺瓊の五百箇御統」という名称も生まれました。それはヘブライ語で、「神は私を守られる!あなたこそ私の守護神!」を意味する言葉だったのです。

多くの「八尺瓊曲玉」と呼ばれる装飾品を紐で結び、敵から身を守るために神の守護を期待しつつ、身に纏うお守りが、「八尺瓊の五百箇御統」です。古代、そのお守りを天照大神自らも護身用として身に纏い、神の守護を期待しました。天照大神にとっ

ても、「八尺瓊の五百箇御統」は、心のよりどころとなる大切な神宝であったことを、ヘブライ語の意味から察することができます。

ヨイショ!とは、神よ、救い給え!

日本では日常、様々な場面で「ヨイショ!」という掛け声を耳にします。とかく、「ヨ」いう発音で始まる掛け声は多く、中でも「ヨイショ!」は、日本人誰もが使われます。御神が統べ治め、私を守ってくださるという信仰心が、「五百箇御統」に込められていたのです。

旧約聖書に登場する有名な預言者の中にイザヤがいます。「イザヤ」とはヘブライ語で神の救いを意味しています。まず、その名前のルーツと詳細を探りながら、ヘブライ語における言葉の仕組みを理解しましょう。そして、神の救いに関するメッセージを含む名前や言葉が語り継がれるようになり、いつしかそれが日本では、「ヨイショ!」、「ヨッサヤ!」という掛け声に転化した可能性について検証してみましょう。

イザヤはヘブライ語で **ישעיהו** (yeshayah、イェシャヤ) または **ישעיהו** (yeshayahu、イェシャヤフ) と書きます。語尾に見られる「ヤ」、もしくは「ヤフ」は、どちらも神を意味する言葉です。**ישע** (yasha、ヤシャ) は、救いを意味する **ישועה** (yeshua、イェシュア) に由来し、その男性名詞が **ישע** (yasha、イェシャ) です。すると、イザヤという名前の意味は「神の救い」であり、救いを意味する **ישע** (yasha、ヤシャ) と、神の **יהוה** (yah、ヤ) が合わせてできた複合語であることがわかります。

神を意味する語尾の「ヤ」という言葉は、「神を誉めよ」を意味するハレルヤの「ヤ」、預言者エリ

ヤの「ヤ」などにも用いられています。**יהוה** (yah、ヤ) という表現は、聖書に6800回も使われている YHWH (ヤハウェ、ヤーウエー) という神の名の「ヤ」に由来します。イスラエルの民の間では **יהוה** (YHWH) という4文字の子音からなる言葉は、聖なる神の名前であることから、決して発音してはいけないと信じられてきました。それ故、YHWHは神聖四文字、またはテトラグラマトンと呼ばれています。今日では母音を付加して「YahWeh」、ヤハウェ、またはヤーウエーと読まれることが多く、時にはエホバと読まれることもあります。また、YHWH (ヤハウェ、ヤーウエー) の頭文字である **יה** (ya、ヤ) だけでも、聖書では神を意味する言葉として用いられています。出エジプト記15章2節を筆頭に、その後、合わせて50回ほど、旧約聖書で使われています。

「ヤ」というヘブライ語は、「イェ」とも発音することがあるので、「ヤシャ」を「イェシャ」、もしくは「イシヤ」と語ること可能です。これらもまた、神の救いを意味する言葉として捉えることができます。それが日本語では、人を救う神のような存在の人ということで、「医者」と呼ばれるようになったのではないのでしょうか。また、イザヤと同様に、神の救いを意味するヘブライ語として、ヨシュアの名前が挙げられます。ヘブライ語では **יהושע** (yahusya、ヤフシャ/Yehoshua、イェホシュア) と書く名前が、旧約聖書に登場するヨシュアの本来の綴りであり、**יושיע** (Yoshia、ヨシア) と記すこともあります。この名前には、「神よ、助けたまえ!」という意味が込められています。語尾に含まれる **ישע** (Sha、

シャ) という言葉のルーツは、救いを意味する **ישועה** (yeshua、イェシュア) です。それ故、「sha」(シャ) と発音するヘブライ語は、それだけで救いの意味を含む場合があります。この「イェシュア」というアラム語のギリシャ語訳が、イエスであり、後に新約聖書に記載されているイエスキリストの名前として用いられるようになりました。

このように、神の救いを意味するヘブライ語の名前は、多数存在します。それら主だったものとしては、下記が挙げられます。

- 「ヤシャ」
- ישע** (Yasha)
- 「イェシャ」
- ישע** (Yesha)
- 「ヤフシャ」
- יהושע** (Yahusya)
- 「イェホシュア」
- יהושועה** (Yehoshua)
- 「イェシヤヤ」
- ישעיהו** (Yeshayah)
- 「イェシュア」
- ישועה** (Yeshua)
- 「ホシア」
- הושע** (Hoshia)

これらの言葉を口ずさんでみると、ヘブライ語ではあるものの、その言葉の響きに一種の共感を覚える方が、少なくないかもしれません。上記の考察からわかることは、これらの言葉が全て、神の救いに結び付く名称であり、聖書や様々な文献にヘブライ語で記されているだけでなく、長い年月をかけても不変の言葉であるということです。それ故、もし、古代社会においてイスラエルからの渡来者が日本の言語に対して様々な貢献を成し遂げたと推測するならば、神の救いを祈り求める際に、これらの言葉を用いていたと仮定できるのではないのでしょうか。そしていつか、

日本列島の各地では、神を祀るしたる所で祭りが執り行われ、神の救いを願いつつ神輿が担がれ、その度に大勢の民は、「神よ、救いたまえ」とヘブライ語で掛け声をかけたのではないのでしょうか。

日本で、お馴染みの「ヨイショ」という掛け声は、これらのヘブライ語がそのルーツにありそうです。「ヤシャ」「イェシャ」「ヤフシャ」という言葉を、ぜひ、声をだして10回ほど繰り返し叫んでみてください。いつの間にか、「ヤシャ」「イェシャ」が、「ヤッシャ」「イェッシャ」となり、いつしか「ヤイシャ」「イェイシャ」と聞こえてきます。こうして、お祭りの際には「神の救い」を求めて大声をあげて喜び歌ってきた古代の民は、いつの間にか「ヤイシャ」「イェイシャ」「ヤッシャ」「ヤイショ」と叫びながら、「ヨイショ」という言葉を育てていったのではないのでしょうか。「ヨイショ」という言葉の背景には、古代の民が日本列島にて、いつも神の救いを求めている証が秘められていたのです。

ヘブライ語で読む「君が代」

日本の国民誰もが歌う国歌「君が代」ではありますが、一種の違和感を訴える人が少なくありません。その理由のひとつが、不可解な歌詞です。君が代で使われている言葉の表現はわかりづらく、子どもたちがその意味を全く理解できないだけでなく、大人でも首をかしげてしまうのです。「細石の巖」や「苔のむす」など、およそ言葉の意味は理解できるものの、一般的には使われることのない難しい表現が随所に含まれています。それ故、学校教育現場においても、その歌詞の意味をきちんと教えることができません。

「君が代」の意味は、少なくとも

BASICのガーデン家具で 楽しいアウトドアライフ!!

ガーデン家具

スマートなフォルムの
高級チーク材ガーデンチェア

当社人気
No.1

GCT009 < 肘掛無し >
¥9,800 (税込 ¥10,584)

- 幅 48cm 奥行 60cm 高さ 100cm ●素材: 高級チーク無垢
- 仕上げ: オイルフィニッシュ ●完成品 ●インドネシア製

GCT010 < 肘掛付 >
¥13,800 (税込 ¥14,904)

- 幅 55cm 奥行 60cm 高さ 100cm ●素材: 高級チーク無垢
- 仕上げ: オイルフィニッシュ ●完成品 ●インドネシア製

**シンプルで折りたたみ式の
ガーデンベンチ**

GTT036
¥27,800 (税込 ¥30,024)

- サイズ: 幅110cm 奥行43cm 高さ100cm
- 座面の高さ: 46cm ●素材: 高級チーク無垢
- 仕上げ: オイルフィニッシュ ●組み立て: 完成品 ●生産国: インドネシア製

**折りたたみでコンパクト
ピクニックテーブル**

GTT033
¥6,980 (税込 ¥7,538)

- 直径 50cm 高さ 50cm ●素材: 高級チーク無垢
- 仕上げ: オイルフィニッシュ ●折りたたみ式 ●インドネシア製

**2~3人様に丁度いい
ラウンドテーブル**

GTT033
¥23,800 (税込 ¥25,704)

- 直径: 90cm 高さ72cm ●素材: 高級チーク無垢
- 仕上げ: オイルフィニッシュ ●折りたたみ式 ●インドネシア製 ※パラソルホールはありません。

**居心地の良い
空間作りに**

GPT180
¥35,800 (税込 ¥38,664)

GPT180DL (耐水)
¥49,800 (税込 ¥53,784)

**パラソルベースにも!
大型丸ガーデンテーブル**

GTT034
¥32,800 (税込 ¥35,424)

おすすめ リクライニング チェア

オートマン
一体型チェア

ゆったり
座れて
コンパクト

RC18BK
¥19,800 (税込 ¥21,384)

- 素材: [座面] ソフトレザー (ポリウレタン)、[背] PVC
- 色: [座地] ブラック、[脚部] ナチュラル
- 幅 750mm 奥行 800mm 高さ 985mm
- クッション: 高級泡綿式

ヘッドレストの
長さ・角度が
調節可能

RC27
¥23,800 (税込 ¥25,704)

- 色: 全2色 (ダークブラウン、ホワイト)
- 幅 800mm 奥行 約 830mm 高さ 995mm 座面高 420mm
- 素材: ソフトレザー (ポリウレタン)
- 360度回転可能 ※足乗せオートマン付き

この他、多数商品を取り揃えております。お得なセール情報も満載!
是非ファニチャーハウスのWEBサイトをご覧ください。 ※ショールームは現在準備中です。何卒、ご了承下さい。

www.furniturehouse.co.jp 携帯電話からはコチラ!

tvilum

ファニチャーハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
ご注文・お問合せは、WEBサイト・電話・ファックスから

TEL: 0476-24-5111
FAX: 0476-24-5112

営業時間
平日 10:00~19:00
土曜 12:00~17:00

送料・お支払い方法・発送時期などについては、お問い合わせください。お客様のご都合によるキャンセル・返品は承っておりません。 ※掲載している価格は2016年2月現在のものです。最新の価格はファニチャーハウスWEBサイトにてご確認ください。

も2通りあるということも、議論を醸し出す要因です。「君」という文字には、「あなた」という意味と、「君主」という意味があります。それゆえ「君が代」は、一般庶民を背景に想定して「あなたの代」と理解することができます。また、天皇は国家の象徴であることから、日本の君主である天皇の存在に重きを置き、「天皇の御代」と解釈することもできます。いずれにしても、「君が代」の歌詞を書かれた作者の意図は不透明なままです。

また代々にわたる繁栄を言い表すために用いられたと考えられる「苔のむすまで」という独特の表現が、果たして「天皇の御代」の永続性を語るに相応しい美しい言葉の響きを持つかどうかについても疑問が残ります。天皇を誉め歌うのに、「あなたの御代は苔に例えることができます」と言えるのでしょうか。さらに「千代」がなぜ「万代」ではなく、それよりも短い年数の「千代」とされ、しかも「センダイ」ではなく「チヨ」と発音されたのでしょうか。続く「八千代」も、同様に「ヤチヨ」と発音されています。何故、九千代(くちよ)、七千代(ななちよ)、八万代という言葉が選ばれなかったのでしょうか。疑問は募るばかりです。

「君が代」の歌詞には、口ずさむだけで不思議と伝わってくるヘブライ語の響きがあります。ヘブライ語で神を意味する「ヤ」「ヨ」という発音が「千代に八千代に」というフレーズに繰り返されているだけでなく、そこに含まれる「チヨニ」という言葉の発音は、ヘブライ語では「シオンの民」を意味する言葉と全く同じ発音なのです。また、ヘブライ語で救いを意味する ish、「イシ」や、イスラエル人にとっては神を意味する「岩」「巖」という表現が含まれていることも気になります。

ある日、「君が代」がもしかしてヘブライ語で書かれているのではないかと考え、ヘブライ語の発音表記と仮定して幾度となく読んでみると、驚くことに、一見日本語で書かれた「君が代」の歌詞が、最初から終わりまで一貫してヘブライ語としても読めることがわかったのです。「君が代」は、元来ヘブライ語で書かれた歌であり、その歌詞に日本語がオーバーラップされ、巧みに組み合わせられて完成した古代の賛歌と言えます。折

句の真髓を極めた天才的な作品である「君が代」には、古代、日本に移住してきた神の民、ユダヤ人の神に対する熱い思いと、その信仰告白とも言える大切なメッセージが秘められています。早速、検証してみましょう。君が代の意味を正しく理解することにより、古代日本の歴史観が塗り替えられることとなります。

「君が代」の歌詞は、「きみがよは」から始まります。このフレーズは、ヘブライ語で読むと、「クム・ガ・ヨフ」という3つの言葉に分けられます。「クム」はヘブライ語の קומ (kum, クム) が語源であり、「立つ」または「起き上がる」ことを意味します。「ガ」はヘブライ語で「来る」「来た」、すなわち英語の「come」と同義語である באה (baah, ハ) でしょう。すると、ヘブライ語で「キミガ」の意味は、「来て、立ち上がれ!」となります。続く「ヨフ」は、神を意味する「ヤハウェ」の発音が多少訛って「ヤハー」「ヨワー」に転化したものでしょう。YHWHという神聖な神の名を意味する言葉は、人間が発音することのないよう、当初からヘブライ語では母音が付けられています。よって今日、イスラエル人は神の名前としてハシムムと呼ばれる仮の名を使用しています。このYHWHという子音4文字は、様々な古代の文献や調査から、おそろく「ヤハウェ」「ヤーウェ」と発音されたであろうと考えられています。YHWHは、子音の付け方によっては「ヨワー」とも発音され、いずれにしても、「ヤハウェ」と酷似した発音になります。また、神は「ヤ」という一文字だけでも、同じ意味になります。すると「キミガヨフ」は、ヘブライ語で「クンバヤハウェ」「クンバヤ」となり、「神よ、立ち上がり、来てください!」という祈りの言葉になることがわかります。

今日、「クンバヤ」は黒人霊歌として知られ、アメリカを中心に世界各地で歌われています。アメリカ東海岸沿いの諸島に住むアフリカ系の人たちが英語で「Come by here」と歌い、それが訛ったものではないかと言うのが歌詞の背景に関する定説です。また、太平洋諸島をアメリカからの宣教師が訪れた際に、そこで現地の島民が「クンバヤ」と歌っていたという話も伝承されています。「クンバヤ」の正確な

発祥の地は不明のままですが、黒人霊歌として親しまれてきたこの歌の語源も、ヘブライ語の「クンバヤ」と考えられます。これは「君が代」という歌のルーツが世界各地で歌われている「クンバヤ」に結び付いているだけでなく、多くの島々に古代、イスラエルの民が渡来し、そこで「クンバヤハウェ」、「神よ、立ち上がり、来たまえ!」と神を祈り求めた結果ではないかと考えられます。

「キミガヨ」の後に続く ציוני (tsiyoni, チヨニ) は、ヘブライ語でシオニストを意味します。今日、シオニストはイスラエル文化の復興を強行するユダヤ人の運動を意味することが多いのですが、遠い昔では同じ言葉が「シオンの民」の意味で使われていたのではないのでしょうか。だからこそ、「君が代」では、「チヨニ」に続いて神を意味する「ヤ」を付加し、「ヤチヨニ」と歌い続け、「神の(シオンの)民」「神の選民」への神の恩寵を語り継いでいたのではないのでしょうか。つまり「千代に八千代に」は、ヘブライ語で「シオンの民、神の選民」を意味していたのです。

次に「サザレ」ですが、これはヘブライ語で שש (sash, サッサ) と שריד (sarid, サリード) と発音する2つの言葉が合成された言葉です。「サッサ」は喜ぶこと、「サリード」は「残りの民」「生き残る」を意味します。古代、国家を失ったイスラエル人にとって、「残りの民」という言葉の意味は重要でした。祖国が崩壊する最中、生き残った民が神の憐れみにあずかり、再び「神の選民」としていつの日か、立ち上がることが信じられたのです。そのことを「サッサ・サリー」「サッサレー」と歌い、日本語では「さざれ」と読まれるようになったのでしょうか。

「サッサリ」が形容する「石の」は、古代、「イシュノ」と発音されていたと想定されます。そのヘブライ語ルーツは人類を意味する אנוש (enosh, エノシュ) の可能性があります。この「エノシュ」が訛り、発音が反転して「エシュノ」に転化したと想定すると、「サッサレー・エノシュ」となり、「残りの民となる人類は喜ぶ」という普通のヘブライ語として読むことができます。また、「イシュノ」を「救い」を意味する ישע (yasha, ヤシャ) (yasha, イェシャ) とし、語尾

に祈りの願いを込めた感嘆詞として使われる נא (na, ナ) を加えて「イェシャナ」「イシュノ」とすれば、救いを求める祈りの言葉としても理解することができます。すると「サッサレー・イェシュノ」は「残りの民は喜び救われよ!」「神の選民は喜び、救いを祈れ!」という意味になります。

「細石(さざれいし)」の後には「巖となりて」という歌詞が続きます。一般的には、小粒のさざれ石が長い年月を経て堆積し、いつしか大きな岩に変貌する意味であると解釈されていますが、このフレーズもヘブライ語で綴られた信仰に関する熱いメッセージだったのです。「巖となりて」は、「イワ・オト・ナリテ」という3つのヘブライ語に分けられます。

まず、「イワ」は、神を意味する YHWH というヘブライ語の子音に任意の母音を付け、「神」の呼び名として、「イワ」という発音を考案したと考えられます。イスラエルの民にとって、岩は神、または神の象徴であったことから、日本語においても岩は、「神」の名として使われることを想定したのでしょうか。それ故、日本流のハシムム、神の別名となるべく、YHWH4文字の子音からなる「イワ」という言葉が生まれ、岩、そして神を意味するようになったのです。それが古代から「岩なる神」と語り継がれてきた所以です。ヘブライ系ユダヤ人のことをアラム語では「WARAA」「イワラ」、神の民を「YEHUDI」「イフディ」「イワデ」と呼び、「イワ」という発音が含まれるのも、それらに「神」の意が含まれているからにほかなりません。岩は神であることの証として、新約の時代では、イエス・キリストが「救いの岩」と呼ばれたのです。

次の「オト」は、ヘブライ語で「私を」を意味する אותי (oti, オティ) が語源と考えられます。そして「ナリテ」はヘブライ語で「見た」を意味する נראה (Niratah, ニラタ) が多少訛った言葉です。NRT という3つの子音から成る「ニラタ」が、ごく普通に同じ子音を持つ「ナリテ」に転化したのでしょう。すると、「イワオトナリテ」がヘブライ語では「神が私を見てくださった」という意味を持っていたことがわかります。

最後に、「苔のむすまで」という締めくくりの文章をヘブライ語

で解釈してみましょう。この言葉の響きは、君が代の限りない繁栄を詠う言葉にしては、今ひとつ理解しづらいと思う方も少なくないでしょう。しかしながらヘブライ語で読むことにより、これまでの歌詞の流れに沿って、歌全体の文脈を理解することができます。「コケノ」の原語はヘブライ語で「コル」「カノ」という2つの言葉から成り立ち、実際の発音は「コ(ル)カノ」です。ヘブライ語で כול (kol, コル) は、「すべて」「全部」を意味します。続く כנו (kano, カノ) は「基礎」「台」の意味を持つ言葉です。ふたつを合わせると「コカノ」「コケノ」となり、「すべての基礎」、すなわち「全地あまねく」という意味の言葉になります。

そして、歌詞の最後の「ムスマデ」は、「語られる」「鳴り響く」という意味を持つ מושמא (mushma, ムシュマ) をルーツとする מושמד (mushmad, ムシュマデ) という言葉です。すると、「コ(ル)カノ・ムシュマツ(デ)」はヘブライ語で「全地にあまねく鳴り響く」「全地に向けて語り告げよ」という意味になります。

「君が代」の歌詞とは、神の選民であるイスラエルの民が、自らに託された使命を明文化した、力強い信仰告白のメッセージだったのです。「君が代」は、「神よ、立ち上がって来てください!」という祈りの叫びである「君が代」は(クムバヤハ)、という掛け声からは始まります。そして「千代に八千代に(チャニ・ヤチャニ)と呼ばれた「シオンの民、神の選民」は、神の大きな恵みを受ける「残された民」として喜んだことが、「細石の(サッサレー・イシュノ)の意味です。さらに、「神は私を見守っている」という信仰告白が「巖となりて(イワオティニラタ)と語られ、最後に「神の恵みが全地にあまねく鳴り響く」という思いが「苔のむすまで(コルカノ・ムシュマデ)という言葉で締めくくられています。

「君が代」とは、ヘブライ語で書かれた信仰の賛歌だったのです。そこには、日本人、そして世界中の人が知るべきメッセージが記されていました。「神よ、立ち上がって来てください!神の選民であるシオンの民よ!残された民は喜ぶ!神は私を見ていた。全地あまねく語り告げよ!」(文:中島尚彦)

WEB サイト案内

日本シティジャーナルをご覧いただきありがとうございます。本紙のバックナンバーは WEB サイトにてすべてご覧頂けます。連載中の歴史に関するコラムは最新情報に随時更新してスペシャルサイト「日本とユダヤのハーモニー」にまとめてあります。ご意見・ご要望等をお待ちしております、FAX やホームページからお寄せ下さい。

日本シティジャーナル : <http://www.nihoncity.com/>
日本とユダヤのハーモニー : <http://www.historyjp.com/>



編集後記

思いもよらず、熊本で大きな地震が起きてしまいました。東日本大震災以来、毎週のごとく、最も信頼してきた地震科学探査機構のデータを見ながら、周囲には備蓄を訴えてきました。ところが地震が起きた時点で、熊本は警戒地域に入っていなかったのです。実は4月6日に地震予測エリアから除外されていました。如何に地震の予知が難しいかを思い知らされると同時に、次は我が身に起こりうることを心得、防災対策を今一度、見直さなければならぬと考えています。皆さんの防災対策は大丈夫でしょうか?!

NCJ 編集長 中島 尚彦
1957年東京生まれ。14歳で米国に単身テニス留学。ウォートンビジネススクール卒業後、ロスアンゼルスにて不動産デベロッパーとして起業。ビジネス最前線で活躍する。1990年に帰国後、成田にサウンドハウスを立ち上げる。現在ハウスホールディングス代表、日本シティジャーナル編集長を兼務。趣味はアイスホッケーと読書。乙酉年は「日本とユダヤのハーモニー」の執筆に動じむ。



極上のくつろぎ空間



全国トップ20
ランクイン!

「大和の湯」効能

腰痛、神経痛、筋肉痛、関節痛、アトピー、五十肩
うちみ、運動麻痺、関節のこわばり、肌あれ、くじき
痔症、冷え性、慢性、消化器病、後回復期、切り傷
疲労回復、健康増進、やけど、風邪の予防など

12種類の内湯・露天風呂

大小合わせて4つの内湯と、天然岩やジャグジー、
樽風呂などの8つの露天風呂。極上の湯に浸り
ながら心身がほぐれる悠久のひと時をゆっくりと
ご堪能ください。

温泉と食事を楽しむ「個室露天」

お食事もお楽しみいただける、限定3室の露天風呂
付き個室もご用意。特別な時間と空間をお過ごし
いただけます。記念日や家族との貴重なひと時などに、
ぜひご利用ください。

お食事処

大和の湯 自慢の2つのレストランをご紹介

3F

スパ・フィットネス

1F

和洋食ダイニング

あじ彩

AJISAI

春の和洋食メニュー!

和食から洋食まで、吟味した旬の味覚をお楽しみ下さい。
また、日本各地のワインを多数取り揃えております

ポークと筍のポトフ

筍の天婦羅

筍のガーリック・バターソテー

自然の甘みと歯ごたえが魅力の春の筍料理

ポークと筍のポトフ	1,000円
筍の天婦羅	500円
筍のガーリック・バターソテー	500円

スパで至高のひととき

YAYOIスパ

プライベートな空間で体の
ケアと癒しを体験できる
リゾート風スパ

《各種料金》

- ◆ボディ(30分)3,200円~
- ◆フット(15分)1,800円~
- ◆アロマ(30分)4,500円~
- ◆フェイシャル(30分)4,000円~

本場アメリカの技術を体感

カイロプラクティック

(YAYOIスパ内)

本場アメリカにて修行し、
国内屈指の技術を誇る田中
直文先生による施術

《施術日》月・木・土・日・祝日
《施術時間》11:00~21:00
《施術料金》1,500円(10分)

*ボディセラピーを、45分(4,500円)以上受けて
いただいた後に施術いたします。

紫苑

SHION

展望寿司レストラン

景色と共にいただく、極上の寿司

春の訪れを告げる壮大な景色をカウンター越しに望みながら、
熟練した板前による新鮮な魚介類を凝らした寿司・刺身を味わえます。

滞つくし

寿司御膳	1,800円	滞つくし	1,200円
<small>握り又はちらし / 天婦羅 / 小鉢・季節のサラダ / 香の物 / 味噌汁 / テーブル</small>		<small>彩りちらし / 季節のサラダ / 汁物</small>	
星の雫	1,200円	刺身盛り合わせ	1,200円~
<small>握り八貫 / 巻物一本 / 季節のサラダ / 汁物</small>			

最新のマシンとプールをご用意

フィットネスセンター

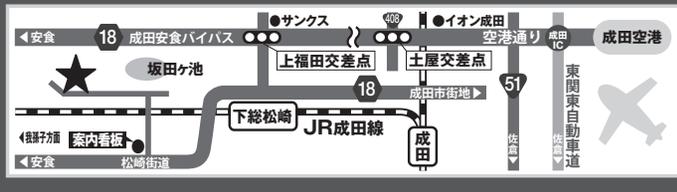
体のコンディショニングに
最適な最先端のマシンを
多数導入しています

《ご利用料金》

- ◆ジム 1,000円
- ◆ジム+プール 2,000円

入館料 [平日]800円 / [土日祝]1000円
※小学生の入館料：300円(大人同伴の入館の場合)
営業時間 10:00-22:00 未就学児の入館は
※年中無休(全館禁煙) **ご遠慮ください**

TEL 0476-28-8111 千葉県成田市大竹1630



成田の命泉

大和の湯

yamato-no-yu

www.yamatonoyu.com